

憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれその母も我を待つらむそ

私、憶良めはもう退出いたしましたしゅう。(家で)子が泣いているでしゅう。山上憶良

それにその母(私の妻)も私を待っていることではしゅう。

罷らむ↓おいとまする。退出する。句切れ↓一・二句切れ

ポイント

宴会から先に帰ってしまつと悪いので子どもを理由に使った温和なジョーク

多摩川にさらす手作りさらさらさら何その見のこごだ愛しき

多摩川にさらしている手織りの布のように、さらさらさら

なんでこの子はこんなにも愛おしいのだろうか

愛しき↓愛おしい 句切れ↓句切れなし さらさららに↓掛詞

多摩川にさらす手作り(さらさららにを導く)↓序詞

ポイント

川で布をさらす女性への恋愛をよんだ歌

父母が頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる

父と母が、頭をなでて無事でいるようにと言ってくれた言葉が忘れられない。防人歌

防人歌↓九州地方の守備にあたった 文法「ぜつつれ」↓係り結び

兵士がよんだ歌

句切れ↓句切れなし

ポイント

故郷から離れて兵役をつとめ、家を出た時の父母の顔やしぐさが忘れられない

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事

新しい年の初め、正月の今日、降る雪のようになくさん積もれ良い事よ 大伴家持

吉事↓良い事 文法体言止め

ポイント

句切れ↓句切れ(いやしけ。吉事)

良い年になりますようにと祈願している